

バンコクの空の下、 “山また山”高らかに

長野高校16回生駐タイ大使小林秀明君訪問記

2007年1月25日～29日



タイ国訪問を終えて

団長 北川原 穰

この度の長野高校16回生によるタイ国旅行、総勢43名の駆け足旅行でしたが、全員の皆様が無事帰国できましたこと何よりも安堵しております。同期の仲間がこのように大勢海外へ旅行するなど長野高校同窓会始まって以来ではないでしょうか？

旅行の第一の目的である現在駐タイ国大使として赴任している長高同期の小林秀明大使ご夫妻をお訪ねして、長野の香りのするエールをおくることができ、大変喜ばしいことと思います。

また、大使ご夫妻には公邸で心温まるおもてなしを頂き心より感謝申し上げます。バンコク市内観光の後、公邸で頂いた冷たいビールの美味しかったこと。

その夜の激励パーティーもタイ国料理を堪能しつつ、大使ご夫妻と親しく歓談、昔話、



タイでの暮らしのお話やら和気あいあいの内に時が過ぎ、長野よりトランペット持参の内田君の伴奏、応援団和田君のリードで校歌斉唱、大使のリクエストで南下軍と歌い、その後なにやら別れ難い気持ちで大使ご夫妻をお見送りいたしました。大変楽しく良い思い出でした。

旅行に話を戻しますが第2日目（26日）のアユタヤ遺跡訪問も感動の連続でした。

日本のように整備され、作られたものと異なり破壊されたままで保存され、それがかえって往時の歴史を彷彿とさせてくれました。

敬虔な仏教徒の国であることが何か親しみを覚えさせてくれるような気がしてなりませんでした。（私は決して敬虔な仏教徒ではありませんが）

3日目（27日）のバンコク市内の寺院訪問も日本の寺院とは色彩、形は異なっても決して違和感はなく自然と仏像に向かって手をあわせてしまう不思議な感動にとらわれました。

街の喧騒、生活環境の違いに違和感を感じるものの、また訪れてみたいという思いが強く、帰国してからも毎日のように旅行の写真を見てはその感を強くしています。

4日目（28日）、我々帰国組とは別に延泊組は水上マーケット観光、カンチャナブリ方面観光と存分に楽しまれたことと思います。

何はともあれ全員が無事帰国できたこと、小林大使ご夫妻とお会いでき公邸訪問が実現できたという声を聞くにつけ安堵感で胸が一杯になります。

末筆ながら小林大使ご夫妻のご健康とご活躍を祈り、幹事役の皆様、旅行社の皆様感謝しつつご挨拶といたします。また行きましょう。

遠来より友を迎えて

駐タイ国大使 小林 秀明

この度、多数の長野高校16回生の皆様のご夫妻でわざわざバンコックまでおいでいただき、私どもを激励していただいたことに、心から感激し、感謝しております。現在、世界に日本大使は百人前後おりますが、高校の同級生がこれほど多数、応援団として駆けつけてくれた大使は、他にいないものと思います。本当に長野の人の団結心と思いやりには心打たれます。



一部の皆様には、出発前の壮行会でお目にかかりましたが、何十年ぶりにお目にかかった方も何人かおられました。それぞれ皆様お元気でお過ごしのご様子で、本当にうれしく思いました。また、殆どの人達が、高校時代の面影をそのまま残しておられてとても懐かしく存じました。

皆様には、わざわざ日本大使公邸までおいでいただき、多少なりとも私どもの仕事や暮らしぶりをご覧になっていただけたことに、感謝いたしております。またその後の夕食にお招きいただき、ゆっくりお話ができたことも有難く存じております。

皆様には、バンコック市内の名所やアユタヤ、そして近郊の名所をご訪問になりましたが、丁度タイは、一番過ごしやすい時期に当たっており、十分お楽しみいただけたことと存じます。私どももカンチャナブリ方面にはお供するつもりでしたが、急に公用が入り実現することができず、申し訳なく存じております。

いずれにしても、事前に多少懸念されていた治安上の問題も生じず、皆様お元気でご旅行を終えることができたのは、本当に幸いであったと存じます。タイは、他にも見所が沢山ありますので、是非またお出かけ下さるようお願い申し上げます。また今回参加できなかった方々には、第二団としておいでくだされば幸いです。

長野では私の父が一人でがんばっていることもあって、休暇や公務で帰国の際にはできるだけ長野に行くようにしておりますので、その際にはよろしく願いいたします。

末筆ながら、長野高校16回生とその家族の皆様の益々のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

今回の旅行のきっかけ

—昨年（平成17年）の10月に、小林秀明君が駐タイ全権大使になるとの情報が入り、同君が卒業40周年の会に出ることになっていたにもかかわらず、当時勤務していた宮内庁で突然の公務が発生し出席できなくなったこともあり、同君の都合さえつければ長野で壮行会をやろうということになった。



同君から11月5日には、長野の父親にあいさつに行くとの連絡を受け、急遽長野在住の同期生に声をかけ、同日に壮行会をやることになった。

11月5日、急な呼びかけではあったが約40名で市内の“ホテル犀北館”で盛大に壮行会を開き、その席上、向こうへ行って落ち着いたなら、長野から皆で励まし？に行こうと話しが出て、酒の勢い？ですんなり決まる。

昨年（平成18年）の8月になって、「そろそろ、やるか」ということで、いつものように酒を飲みながら検討を始め、10月に同期生全員に案内を送った。なお、訪問団長は、人格円満な北川原君に、使用する旅行社は、同期の上原君が役員をしている“長野トラベル”に決める。

参加希望者は、一時は50名を超えていたが、現地での爆弾騒ぎ等もあり、結果として、勇気ある？参加者は43名となった。

1月25日（木）

長野各地

8時過ぎに貸切バスにて勇躍、出発！早速、持ち込んだビールを飲み始め、結局、サービスエリアの各駅停車。

成田空港

たいした渋滞もなく、2時過ぎに成田空港に到着。夏服に着替え、全員集合。あちらこちらで「お久しぶり！」、「あいつ誰だったけ？」。間髪を置かず、「やあ！」、「やあ！」、「やあ！」。



機中

JAL 703便定刻16:00に離陸。座席はかたまって取れ、早速、長野弁が、酒が進むにつれ飛び交う。バンコクまでは、意外と7時間もの長道中、さすがに齢には勝てず、スヤスヤ……。

スワンナプーム空港

着いた空港は、世界一の規模とのこと。広い空港ビルの中、歩くエスカレーターを乗り継いで、入国審査へ。内田夫妻は、ここで誰も並んでいない窓口へ案内される。タイ人に間違えられたと思いきや、添乗員の岡部さんに聞いたら、ピックアップということ。

ホテル

空港から出たら、さすがに暑かったが、遅い時間のせい、さほどに感じず。バス2台に分乗してバンコク市内へ。宿泊するホテルは“サイアム・シティ・ホテル”。部屋も広く、立派なホテル。深夜の外出者はいなかったようです。

1月26日(金)

朝食・出発

いつものクセなのか、ほとんどの者が早くも朝食を摂っていたのには驚き。バイク形式でいろいろあり、美味しく食べられた。2台のバスに分乗し、いざ出発！バンコク市内は大都会そのものであるが、郊外へ出ると、まだ発展途上といった感じ。道路の脇には“国王”の肖像が立ち並ぶ。



バンパイン離宮

最初の訪問場所は、王宮別荘である。バスから降りると、確かに日差しは強いものの長野の夏とさほど変わらず。入口前では、待ってましたとばかり、カメラのシャッターの嵐。急かして入った離宮は、“なるほど、これがタイか！”で壮麗な建物が立ち並ぶ。中には、国王の側室の建物が数棟あり、某君は羨むことしきり。

日本人町跡

次なるは、山田長政活躍の地。跡地には碑が立っているぐらいで当時を偲べるものはなかった。敷地内には日本人が経営している土産店があり、日本人が活躍していた。

ワット・ヤイ・チャイモン

1357年に立てられた寺院で、巨大なチェディ(仏塔)を囲むように何十体もの仏像が並んでいる。お賽銭箱はなく、売り場で花などを買ってお供えしていたが、信仰心が厚いことが窺われた。

昼食

近くのレストランにて、待ちに待った昼食。いよいよタイ料理を口にする。タイ風ラーメンが人気。何よりもシンハービールが喉ごし爽やかで最高、アツという間に空ビンの列。



アユタヤ遺跡

当日のハイライトで、最も有名なワット・プラ・シー・サンペットの3基のチェディ(仏塔)のある一帯である。1491年頃建てられ、金色の仏像もあったそうであるが、その後ビルマ軍によって破壊、略奪されたとのことである。風化された3基の仏塔は、建立当時は朱で塗られ、現在は渋く、趣のある日本の古寺のようであった。歌心があれば、気の利いたことが言えるのであるが、やはり、良かった。

ワット・マタハート

14世紀の寺院の遺跡で仏塔はクメール様式である。見所は、神聖な木“トンポ”に眠る仏頭であったが、小林義正君の奥さんが「霊が見える」ということで退散。周囲を囲んで幾体もある仏像は、すべて仏頭がなく物悲しい。

宝石ショップ

最初のショッピングは、タイは宝石で有名とのこと、宝石店へ。牽制し合ったのか、知らないが奥さん連れも含め、宝石には手を出さず、専らタイシルク等の品物を物色。

夕食&タイ舞踊

本日の夕食は、某ホテルでタイ舞踊を見ながらのタイ料理。
チェンマイ美人の舞う姿に見とれ、涎を流している者若干名。
タイのウィスキーもすすみ、ぐっと打ち解ける。
フィナーレは、我々観客を巻き込んでのタイ式盆踊り。お疲れ様！



1月27日(土)

王宮

まだまだ全員元気に出発。屋台が立ち並ぶ市内を通過して、王宮へ。入口付近の道路は大混雑。バスから降りて、土産品の売り子に付きまといながら王宮の中へ。幾多の宮殿が立ち並ぶ様は壮麗のかぎり。日光東照宮も及ばず。写真を撮りながらエメラルド寺院へ。金箔と色ガラスで装飾され、ガルータ（神鳥）に守られたタイ仏教建築の最高峰の建物である。衛兵の行列を見て、再び大混雑の中、バスに乗り込む。

ワット・ポー(涅槃寺)

18世紀の終わりに建てられたバンコク最大の敷地をもつ寺院。
さしづめ、日本でいえば東大寺であるが、こちらは寝ておわす。
長さ46メートルの金箔に覆われた巨大な涅槃像であった。



ワット・アルン(暁の寺)

ワット・アルンへは渡し舟でチャオプラヤー川を渡る。5分もかからないが、よく揺れる。仏塔は華麗であり、その中で最も高いのが高さ67メートルのプラ・ブッタ・プランでガラスや中国陶器をはめこんだ花模様のモザイク装飾が見事。暑さの中、やや疲れ気味。

昼食

市内のホテルのレストランでバイキング形式の昼食。タイ料理の他、中華、洋食もあり、タイ料理に食傷気味の者にとっては有難い。この後3時から大使公邸で醜態を見せないよう酒は控え気味とした。

ショッピング

2回目のショッピングは、タイシルク専門店。店員にプレスをかけられながらも思い思いにスカーフ、ポーチ、ネクタイなど、誰かさんへのお土産を購入。

大使公邸訪問(1月27日3時)

訪問

公邸には、警備員が道路をシャットアウトしてくれたので、バスでスムーズに入れた。小林大使が、玄関で出迎えてくれ、公邸の中へ。

歓迎セレモニー

案内してくれたホールには、各テーブルの上に冷えたビール、冷えた果物、お菓子等々。先ずは喉を潤し、落ち着いた後、大使から歓迎のあいさつがあった。更に驚き、嬉しかったことはバンコク長高会の方々をよんでおいてくれたことである。会長の玉井氏ほか6名のあいさつ、自己紹介の後、大使夫人を交え歓談。

公邸内見学

大使夫妻の案内で、公邸内を見学。昨年、天皇、皇后両陛下がタイにいらしゃった時に休まれたお部屋では、我先にと記念撮影。公邸での生活も、公の部分が多く、本当に気が抜けない、大変なように察しられた。

記念撮影

玄関口で、2グループに分かれ、大使夫妻、バンコク長高会の方々と記念撮影後、退邸。大使夫妻の、きめ細やかな歓待に一同感激しきり。



大使とバンコク長高会の皆さん

小林大使夫妻との夕食会（1月27日7時）



記念撮影

会場は、宿泊先であるサイアムシティホテルの別棟。ちょうど所用でバンコクに来ていた柳沢忠君（5組）が駆けつけて来てくれた。
大使夫妻到着後、まずは中庭にて、全員で記念撮影。

校歌斉唱

最初に、校歌“山また山”を全員で高らかに歌う。長野でのこのような席では、内田寛君のトランペットの伴奏が入るのであるが、今回は無理であろうと思っていたところ、何とミニトランペットをわざわざ買ってきて、見事に伴奏をしてくれたのである。感謝の一語！

団長あいさつ

次いで北川原団長より“今回の訪問の意味”についてあいさつ、先ほどの公邸訪問での歓待に対して謝辞があった。

大使あいさつ

小林大使から“一昨年の壮行会に引き続いての同期生による今回の訪問に対するお礼”のことばと、“駐タイ大使として着任してからの苦労話”が語られた。

土産贈呈

長野からの土産として、野沢菜、郷土菓子、日本酒、七味唐辛子、流行本（風林火山と栗林中将）を大使夫妻に贈呈。

歓談

今回の食事会はbuffetスタイルで、タイ料理、西洋料理等々なかなか豪華なものであった。飲み物も自分の好きなカクテルもオーダーができたりでホテル側の力の入れ様が感じられた。



夫人あいさつ

大使夫妻を囲んでの集いは大変な盛り上がりを見せた。間では、内助の功で大車輪の大使夫人にあいさつをしてもらったが、脇に立つ小林秀明君の嬉しそうな顔が印象的であった。

応援歌快唱

その後、小林秀明君からのリクエストもあり、「南下軍」などの応援歌を、応援団であった和田君と内山さん（11期生）の指揮、内田君の伴奏および内田夫人の譜面めぐりにより元気いっぱい、歌った。



謝辞・閉会

時間はあっという間に過ぎていき、最後に小林秀明君から「この後、第二陣、第三陣とどんどん来てほしい」との締めあいさつがあり、拍手で夫妻を見送った。

1月28日(日)、29(月)

3泊4日組

ホテルの好意により、早朝に朝食を摂り空港へ。空港に着いたら、バスのトランクの鍵が毀れ、30分足止めのハプニング。結局は力任せに鍵を壊し、無事搭乗。順調な飛行であったが、成田空港の入国審査（税関）で小林義正君がチェックにひっかかり、ロス。税関の係員はさすがに目が行くものだ。帰りの道路も順調で予定より早く長野に到着。

4泊5日組

オプションツアーとして「カンチャナブリ、クワイ川鉄橋」組と「水上マーケット」組に分かれて行動。若干名は自由行動。なお、元気な希望者により、夜、タイ名物「ニューハーフショー」観賞に出動。

最終日は昨日の3泊4日組と同様、すべて順調にいき、予定より早く長野に到着。ハプニングは何も起こらず、物足りず。添乗員の岡部さん、ありがとうございました。また、皆で出かけましょう。それまでお達者で！

ま と め

我々16回生の初の公式の海外旅行そして初の公式の家族同伴旅行も無事、成功裡に行なうことができた。何よりも主目的である駐タイ大使小林秀明君への慰労、激励が心をこめて実現することができた。これも我々のまとまりの良さからであると自画自賛しよう！今回の旅行の成功の縁の下の力持ちとして、申し分のないスケジュールリングをしてくれた添乗員の岡部さん、重いカメラ機器を抱えながら記念写真を幅広く、沢山撮ってくれた三原君に心から感謝したい。